

# 「Liminal」

芸術研究科 造形表現専攻  
写真・映像領域 博士前期課程  
2025年3月修了

丁 柯元

主査 百瀬 俊哉 副査 大日方 欣一 佐藤 慈

## 研究背景

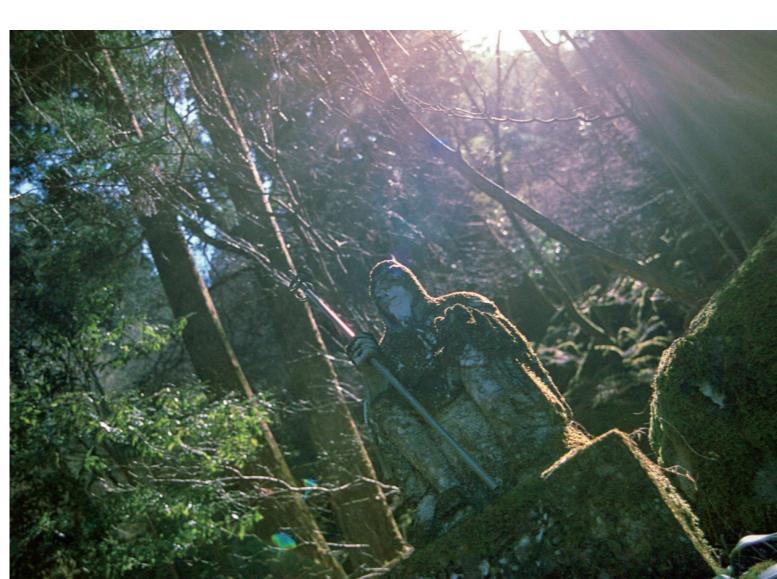
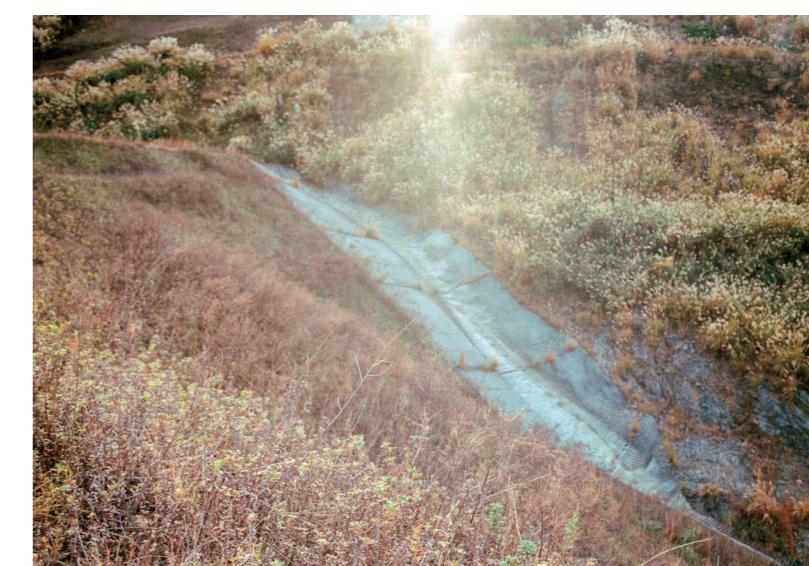
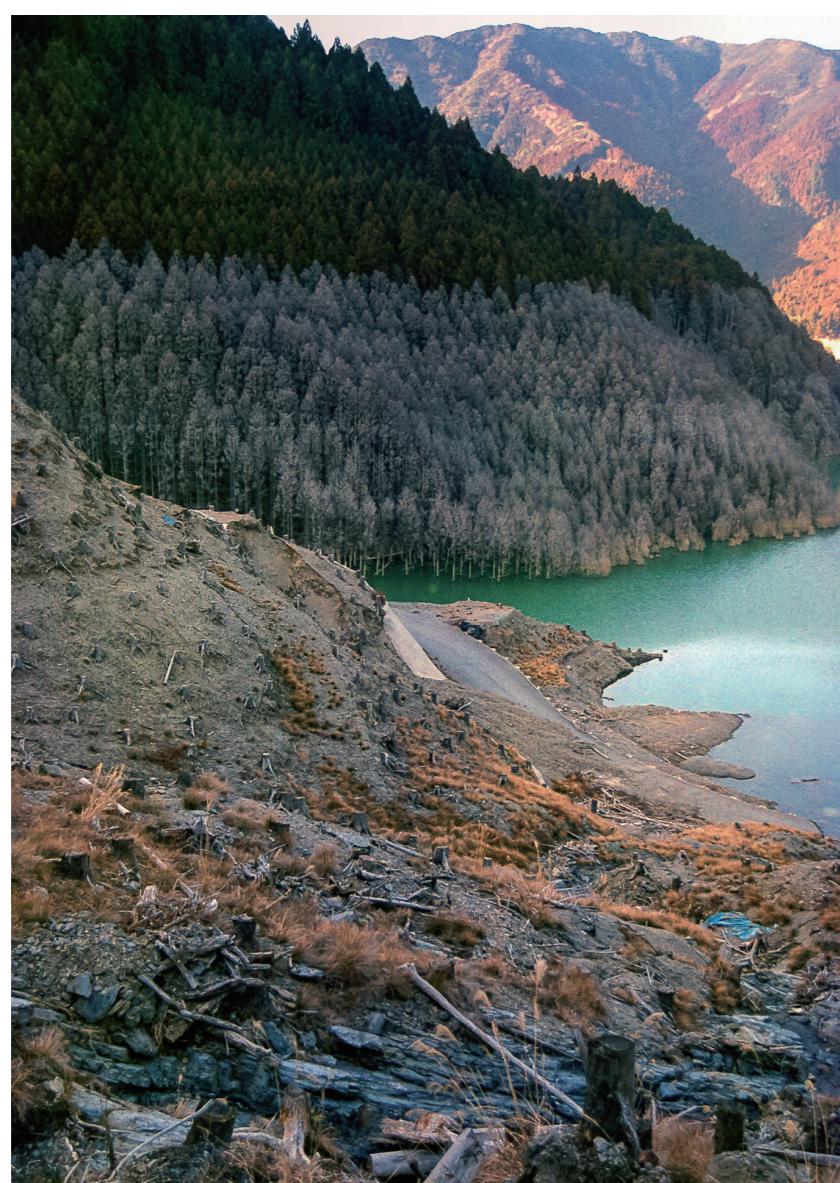
人類社会の急速な発展は、人類と自然の関係を絶えず変化させています。都市化が急速に進む中でも、自然はさまざまな形で人間の生活や建築に浸透し続けています。一方で、人間の活動も自然に深い影響を与えています。このような相互作用と共生の過程こそが、私の創作の核心となるテーマです。私は、森、ダム、岩、下流の水源、生物、そして人々や都市環境を撮影し、自然と人間の交錯と循環を表現しています。これらの作品を通じて、自然と人間の生活がどのように深く交わり、共存しているかを伝えたいと考えています。

## 研究目的

私の研究は、人間と自然の相互作用、特に植物と人間の類似性、そしてこの相互作用が写真でどのように表現されるかを探求することに焦点を当てています。私はダムとその周辺環境、石、水源、微生物などを撮影し、同時にカメラを私が知っている人々に向け、自然の中での存在と環境との相互作用を観察します。私は写真の組み合わせを通じて人間と自然のダイナミックな関係を展示し、人間と植物の共生から人間と自然の相互影響、そして自身と他人の相互作用まで、完全なローテーションに構成しています。

## 研究概要

「Liminal」 2024年



## 成果・まとめ

作品の撮影範囲は、植物、生物、人間の痕跡、そして自然と人間の共生というテーマを含んでいます。いくつかの独立したシリーズを一つの完全な叙事構造を持つ作品として結びつけました。そして、「Liminal」というタイトルの作品を完成させ、写真を通じて人と自然の交錯と循環の関係、さらには私と万物との対話を表現しました。創作の過程で、私は写真が単なる瞬間の切り取りではなく、緻密な論理的思考と構造の構築を必要とする実感を実感しました。これは私にとって重要な学びと実践の機会となりました。

## 指導教員コメント

写真を通じて「私と万物との対話」を表現するという意図も、この制作の核心にあります。これら対話は、自然の静けさや力強さ、人間の存在や痕跡の儚さを写し出すだけでなく、それらの相互作用が生む新たな物語を提示しています。観る者は、写真の中に織り込まれた構造的な美と論理に触れることで、自身と自然とのつながりを再考し、写真表現の可能性を探るだけでなく、自然と人間の関係性を問い合わせ、鑑賞者に思索の余地を与える意欲的な作品となっています。

百瀬 俊哉

